

医療現場が必要とする製品を作り上げ 医師と患者の双方にメリットをもたらす

株式会社 Picture Technology

(代表取締役 安田 朱里)

東京都渋谷区神宮前 6-23-4 桑野ビル 2F

URL : <https://picture-tech.com>



医師が患者に病状説明を行う際に使用する、外来診察用カメラや 3D 映像装置などの製造・販売を手掛けている『Picture Technology』。同社は安田顧問が医療現場で働く奥様と共に、2021 年 5 月に立ち上げた若い会社だ。「効率的で、正確で分かりやすい患者説明をサポートしたい」と語る顧問に、松尾伴内氏がインタビューを行った。

顧問
安田
直聖



——安田顧問の社会人としての第一歩目からお聞かせ下さい。

学業修了後は、ロシアにも工場を持つ老舗の専門商社に入社しました。工場運営や品質管理、貿易について学べると考えたからです。その後、技術やテクノロジーを活かして人を助けられる医療関係の職に就きたいと考え、手術用顕微鏡のレンズ製造に特化した医療機器製造会社に転職。9年間セールスに携わり、エリアの統括を担うスーパーバイザーを務めました。さらに、セールスの次はマーケティングについて勉強したくて、大手医療機器製造会社の本部マーケティング部門に転職したんです。

——順調にキャリアアップしてこられたわけだ。その後、独立を考えられて？

ええ。「医師と患者の双方にメリットをもたらしたい」との思いから、2021 年 5 月に『Picture Technology』を創業し、医療現場で働く妻を社長に据えて私が顧問となりました。そして、患者説明を重視する妻の考えをもとに、患者説明をサポートするシステムの製造・販売事業に着手したんです。今の時代はネットで様々な情報を手に入れられるからこそ、患者さんはより詳細・正確で、専門的な説明を

医療機関に求めていますからね。

——ネットで何でも調べられて便利になった反面、正しい情報かを判別するのが難しくなりました。医療機関での患者説明はますます重要になっていきますね。

その通りです。ですが忙しい医療現場で、患者に分かりやすく噛み砕きながら説明していくことは困難なんです。そこで医師が患者説明を効率良く充分に行うためのシステムや撮影関連機器を提供しています。これらの製品は医師からのアドバイスや技術的なサポートを受けて開発しているんですよ。

——製品について詳しくお伺いします。

たとえば医療機器に取り付けられているメディカルカメラは通常光撮影や赤外線撮影が可能で、撮影した写真は臨床記録として保管できます。それに遠隔医療にも使用できるため僻地での診察にも利用可能です。他にも骨格・血管模型の患者説明用モデルなどもあります。これらを使用して病状を説明することで、病気についての患者さんの理解も深まるんですよ。患者さんは治療におけるリスクも理解した上で何を優先したいかを医師と相談し、治療方法を決められるようになります。病気を克服するために失うものを減らせることで

しょう。

——言葉だけでは説明も理解もしづらいことが多いですから、御社の技術は医療現場で重宝されていることでしょうか。

そうであれば嬉しいですね。医療器具の進歩は目まぐるしく、現場から求められるものも変化します。当社はそのニーズに応えたい。ニッチな分野の場合は社会的に意義があっても事業性や収益性が低い、または挑戦したくても必要な技術を持っていないなどが事業化の障壁となることが多々あります。当社は、「優れた技術を武器にニッチ市場で利益を上げるシステムを構築する」——そこに存在価値を見出しました。ですから、たとえ収益性が低くても、ニーズや意義を見出したら利益を上げられるシステムを築いて、事業を通して社会的責任を果たしたいという考えを会社として大切にしています。

——素晴らしいお考えですね。創業されたばかりですから、まだまだこれからだとは思いますが、今後について。

いずれは自社工場の建設ができるまでになれば嬉しいですね。これからも医療現場で必要とされている物を理解し、生み出していけるように頑張っていきます。

(取材 / 2021 年 10 月)



ゲスト 松尾 伴内

「私のように医療知識がない立場からすれば、たとえ軽い症状であっても不安が募ります。ですから医療技術だけでなく患者説明も向上していけば、より安心して治療を受けられます。『Picture Technology』さんのように患者説明をサポートする製品を生み出して下さる会社は貴重ですね」

